



●独自のリベラルアーツ教育 「青山スタンダード」

さまざまな問題を多角的にとらえ、自分たちの未来を主体的に決めていく総合的な価値判断ができる「良き市民（good citizen）」を育成する全学共通教育システム。異なる学問や分野の仲間との「出会い」が複眼的な視野を養い、多様性を理解する。

【ウェルカム・レクチャー】

“大学で学問を学ぶ意義”について理解を深め、学生生活や社会で役立つことを伝える。

【フレッシュヤーズ・セミナー】

セミナー（演習）形式の授業を通じて、“大学における学びの作法”を体験的に学ぶ。

【キャリアデザイン・セミナー】

卒業後を「今」考えることで、職業観、勤労観の養成を目指す。

【コア科目】

《教養コア科目》

キリスト教理解、人間理解、社会理解、自然理解、歴史理解の5領域

《技能コア科目》

言葉の技能、身体の技能、情報の技能、キャリアの技能

【テーマ別科目】

コア科目の各領域科目の応用的かつアドバンストな科目で、基本的に2年次以降の学生が履修。個別的なテーマや各学部の専門導入的な内容となっている。



マクレイ記念館

青山学院大学の理工学部は、新しい高温超伝導体の発見など、社会に大きなインパクトを与える数々の研究成果で国内外で高く評価されています。相模原キャンパスを拠点として、物理科学科、数理サイエンス学科、化学・生命科学科、電気電子工学科、機械創造工学科、経営システム工学科、情報テクノロジー学科の7学科で、最新設備を駆使した実験、演習研究活動を行っています。

理工学部は独自のプログラムやカリキュラムを展開しています。中でも特徴的なのが、本格的な学びの場を提供する「理工学高度実践プログラム」と、海外留学を幅広くサポートする「理工学国際プログラム」です。



相模原キャンパス

基礎から最先端まで幅広く学び国際レベルの研究を誇る理工学部

「理工学高度実践プログラム」は、「早い段階から専門的な勉強がしたい」「自分が望む研究に近づきたい」など、意欲的で優秀な学生の期待に応える教育プログラムです。学科の枠を超えたさまざまな分野において、2年次または3年次といった早い段階から、専門性の高い高度な学習・研究にじっくりと取り組むことが出来ます。そのため、学生の多くが大学院への進学を視野に入れており、進学率は51・7％と、他大学と比べても高い水準にあるのが特徴です。

また、科学・技術の学びにおいて英語の力は欠かせません。「理工学国際プログラム」は、世界に羽ばたき活躍する科学者・技術者の育成を目的とする独自のプログラムです。英語で学び、英語で研究し、英語で成果を発表することを目標に、実践的な英語教育を行っています。

さらに、海外留学を視野に英語を多く使う専門科目があり、交換留学をしても4年間で卒業できるようになっています。また、米国やタイなどの提携校に、長期休暇を利用して

なっています。地下1階・1階で幅広い「知」に出会った後に2階から4階で学びを掘り、5・6階で学びを深め、極めます。そして地下1階・1階で自らや他者の次なる学び

につなげていくという「知のスパイラル」が生まれる構造になっています。マクレイ記念館は、青山キャンパス内の東西南北の動線が交わる「ハブ」ともいえる場所に位置していま



青山キャンパス

2024年に創立150周年を迎えた青山学院は、建学の精神を長い歴史の中で守り続けながら、時代の要請に応えた変革を遂げてきました。青山学院大学も、高校までの学びをスムーズに大学教育に接続できるよう、入学者選抜制度の改革を実施。スクール・モットーの「地の塩、世の光」の精神を体現するサーバント・リーダーを世に送り続けています。

入学後は、独自のリベラルアーツ教育「青山スタンダード」を通じ、所属学部・学科に関わらず、幅広い知識と教養・技能を修得。4年間、専門性を磨きながら新たな価値観や知り得なかった異なる学問に出会うことで、さまざまな問題を多角的にとらえ、総合的な価値判断で未来を主体的に決められるようになります。

青山キャンパスには2024年にマクレイ記念館が開館。学生同士の学びのハブとなることが期待されています。

理工学部では学生個々の期待に応える独自のカリキュラムやプログラムを展開しています。

青山学院大学

〒150-8366 東京都渋谷区渋谷4-4-25 入学広報部 TEL 03-3409-0135 <https://www.aoyama.ac.jp/>

多様性と真摯な学びに重きを置き
すべての人と社会のために未来を拓く
サーバント・リーダーを育成する

思考力・判断力・表現力を評価
複数の方式での入学者選抜

青山学院大学は、高等学校における教育制度改革が活発化する以前から、新しい教育の下で学んだ高校生をスムーズに大学教育に導くための体制を整えてきました。

例えば、入学者選抜の中核を成す「一般選抜（個別学部日程）」では、多くの学部において高等学校までに身に付けた基礎学力を共通テストを併用して測るとともに、「思考力・判断力・表現力（3つの力）」をこれまで以上に評価することを目的とし、記述式・論述・総合問題を充実化した独自問題を作成しています。独自問題は、各学部・学科のアドミッシヨンポリシーに沿って作題され、受験生と各学部・学科をつなぐ架け橋の機能も担っています（一部の学部・学科・方式では、共通テストを併用しない独自問題のみの選抜も実施）。

このほかに、独自問題のみをマークシート方式で行う「一般選抜（全学部日程）」、「大学入学共通テスト利

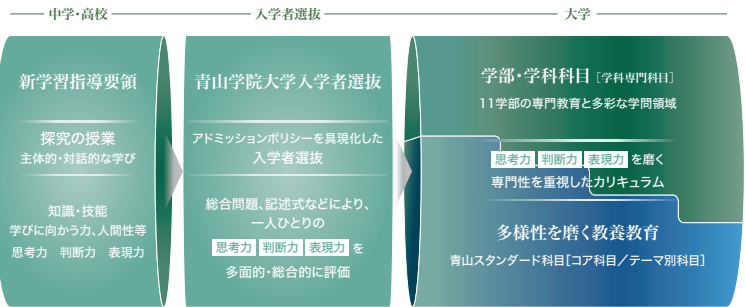
用入学者選抜」も実施します。この3つの選抜種別間で併願が可能です。入学後は、高校までに培われた力をさらに磨くために、独自のリベラルアーツ教育である「青山スタンダード」や先述の3つの力を伸ばす、学部・学科の専門科目を多数用意しています。

知のプラットフォーム
「マクレイ記念館」

青山学院が創立150周年を迎えた2024年、青山学院大学の青山キャンパスに「マクレイ記念館」が開館しました。1つの建物の中に図書館、情報メディアセンター、アカデミックライティングセンターを集約した総合的な学術情報施設です。マクレイ記念館は、「学生本位」というコンセプトの下に、一人一人のニーズに対応した設備やサポート体制を整備しています。地下1階・1階は情報学習フロア、2階から6階は図書館フロアとなっています。

情報学習フロアは「知との出会い」を実現する空間として、多種多様な教育研究活動を実施できる設備・環境が整っています。個人学習だけでなく、グループワークやアクティブラーニングに適した設備があります。イベントやワークショップが開催可能なスペースもあります。図書館フロアのうち、2階から4階は「知を拡げる」場所として、個人で文献を読むだけでなく学生同士で学び合えるラーニングコモンズなどを設けています。5階・6階は「知を深める」ための専門的な文献や研究個室のほか、学外とのオンライン会議にも対応できるプレゼンテーションルームを配置し、より専門性の高い学習や討論のできる環境を提供しています。

このように、フロアごとに多様な「知」と向き合うことが出来るように



すべての人と社会のために
未来を拓くサーバント・リーダーへ